

ラトルが世界的オーケストラに育て上げたバーミンガム市交響楽団
欧州で躍進するヤマカズの指揮で来日!

第54回大阪国際フェスティバル2016

山田和樹 指揮

バーミンガム市

交響楽団

*Kazuki Yamada Conducts
The City Of Birmingham
Symphony Orchestra*



© marco borggreve



© 厩坂清文

河村尚子 [ピアノ]

ラフマニノフ: **ピアノ協奏曲第3番** ニ短調 作品30

Rachmaninoff: Piano Concerto No.3 in D minor, Op. 30

(ピアノ:河村尚子)

ベートーヴェン: **交響曲第7番** イ長調 作品92

Beethoven: Symphony No.7 in A Major, Op. 92



© Neil Pugh

2016 **6.26** (日) 開演14:00 (開場13:00)

S 12,000円 A 10,500円 B 9,000円 C 7,500円 D 6,000円 BOX 16,000円 バルコニーBOX(2席セット) 24,000円 [全席指定 消費税込] ※バルコニーBOX席はフェスティバルホール チケットセンター(電話予約)のみの取扱

フェスティバルホール

〒530-0005 大阪市北区中之島2-3-18 京阪中之島線「渡辺橋」駅12番出口直結 地下鉄四つ橋線「扇後橋」駅1-A出口

チケット 一般発売日	フェスティバルホール クラブ会員 先行受付開始	2015 11/28 (土) 10:00-
2015 12/13 (日) 10:00-	フェスティバルホール オンライン会員 先行受付開始	2015 12/5 (土) 10:00-

お
ご
問
合
せ

- フェスティバルホール チケットセンター 06-6231-2221 (10:00~18:00) ※窓口での取扱は12月14日(月)より(ただし、残券がある場合のみ)
- フェスティバルホール オンラインチケット (要事前登録) <http://www.festivalhall.jp> (PC・携帯共通)
- キョードーチケットセンター (オペレーター対応) (各日10:00~18:00) 0570-08-9910 (2015 12/12(土) 18:00まで) 0570-08-9970 (2015 12/13(日) 10:00より)

ガ
イ
ド

- e+イープラス <http://eplus.jp/> ●チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード 281-330] <http://t.pia.jp/>
- ローソンチケット 0570-000-407 (オペレーター対応) 0570-084-005 [Lコード 53343] <http://l-tike.com/>
- CNプレイガイド 0570-08-9990 <http://cncn.jp/>

主催:朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪国際フェスティバル協会 協賛:朝日放送、大和ハウス工業、高砂熱学工業
協力:フェスティバルホール

※やむを得ない事情により曲目、出演者等が一部変更になる
場合がございます。公演中止の場合を除き、チケットの変更・
払い戻しはできません。予めご了承ください。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。



山田 和樹 [指揮] Kazuki Yamada (conductor)

1979年神奈川県秦野市生まれ。東京藝術大学指揮科卒業。指揮法を松尾葉子・小林研一郎の両氏に師事。2009年第51回ブザンソン国際指揮者コンクールに優勝、併せて聴衆賞も獲得。ただちにモントルー＝ヴェヴェイ音楽祭にてBBC交響楽団を指揮してヨーロッパデビュー。同年、ミシェル・ブラッソンの代役でパリ管弦楽団を指揮、すぐに再演が決定する。2010年には、小澤征爾氏の指名代役として、カザルスホールでの演奏会、スイス国際音楽アカデミーにて指揮したほか、小澤氏の推薦によりサイトウ・キネン・オーケストラを指揮、好評を博した。これまでに、NHK交響楽団をはじめとする国内主要オーケストラ、BBC交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団、バーミンガム市交響楽団、パリ管弦楽団、スイス・ロマン管弦楽団、ベルリン放送交響楽団、フランクフルト放送交響楽団、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団、プラハ交響楽団、サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団などへ客演。2012年には、サイトウ・キネン・フェスティバル松本にて小澤征爾氏の代役としてオネゲル作曲「火刑台上のジャンヌ・ダルク」を、サントリー芸術財団サマーフェス

ティヴァルではクセナキス作曲「オレスティア三部作」を続けて指揮、好評を博した。横浜文化賞文化・芸術奨励賞、出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、文化庁芸術祭賞音楽部門新人賞受賞。現在、スイス・ロマン管弦楽団首席客演指揮者、日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者、横浜シフォニエッタ音楽監督、オーケストラ・アンサンブル金沢ミュージック・パートナー、仙台フィルハーモニー管弦楽団ミュージック・パートナー、東京混声合唱団音楽監督。2014年9月よりモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者に就任。

バーミンガム市交響楽団

City of Birmingham Symphony Orchestra

エドワード・エルガーは、1920年11月、バーミンガム市管弦楽団の最初のコンサートを指揮した。それから90年以上が過ぎ、バーミンガム市交響楽団(CBSO)はバーミンガム市にしっかりと根ざしながら世界的に評価される90人のアンサンブルに成長した。エドリアン・ボルト、アンジェイ・パヌフニク、ルイ・フレモアらの指揮・監督のもとで、CBSOの評価は徐々に高まった。しかし

CBSOを真に世界有数のオーケストラの地位にまで引き上げたのは、サイモン・ラトルの18年にわたる指導である。1998年にラトルが去ってからも、CBSOは成長と繁栄を続け、最初にサカリ・オラモが、2008年9月からはカリスマ的な若いラトヴィア人指揮者、アンドリス・ネルソンスがCBSOの発展に貢献している。現在ネルソンスは、首席客演指揮者エドワード・ガードナー、副指揮者マイケル・シール、合唱監督サイモン・ハルシーらなどの優秀なアーティストとともに団を牽引し続けている。CBSOはバーミンガム・シンフォニー・ホールレジデント・オーケストラとして、ベートーヴェンからボリウッド(インドの映画音楽)、交響曲、コンテンポラリー・クラシックまで幅広いレパートリーを有しており、より気軽なクラシックが楽しめる「フライデー・ナイト」シリーズや、家族全員が楽しめるコンサートなど多様な企画を提供している。また、ヨナス・カウフマン、内田光子、イアン・ポストリッジといった世界の一流アーティストとも共演している。近年、CBSOはヨーロッパ有数の格式あるコンサート・ホールや音楽祭で数多く演奏を行っている。今シーズン、ネルソンスとオーケストラは過去最大規模の海外ツアーを実施し、12か月で35回のコンサートを演奏した。CBSOは複数の主要なレーベルと契約してディスコグラフィを拡大し続けており、ラトル、オラモとの録音には多くの受賞作品が含まれている。2009年6月にはCBSOとネルソンスの最初のCDが、ドイツのレーベル、オルフェオからリリースされた。CBSOの学習・参加型プログラムには、ウェスト・ミッドランズ州内の多くの地域で、年間35,000人以上の人々が参加している。そのプログラムは、恵まれない地域にある保育施設に音楽を届けるといったものから、若く才能ある次世代の音楽家を育成するといったものまで、多岐にわたっている。CBSOファミリーには、CBSO合唱団、オーディションのある2つの少年少女合唱団(CBSO児童合唱団、CBSOユース合唱団)、オーディションのない2つの市民合唱団(CBSO SOヴォーカル、CBSOヤング・ヴォイス)という5つの合唱団、CBSOユース・オーケストラ、さらには、オーケストラのメンバーによる様々な室内楽アンサンブルが含まれている。



河村 尚子 [ピアノ] Hisako Kawamura (Piano)

ハノーファー国立音楽芸術大学在学中、ミュンヘン国際コンクール第2位、クララ・ハスキル国際コンクールで優勝し一躍世界の注目を浴びる。2004年小林研一郎指揮/東京フィルハーモニー定期演奏会で日本デビュー。以来、準・メルクル指揮/NHK交響楽団を含む日本国内の主要オーケストラと相次いで共演を重ねる一方、フェドセーエフ指揮/モスクワ放送響、ルイージ指揮/ウィーン響、ヤノフスキ指揮/ベルリン放送響、プレトニョフ指揮/ロシアナショナル管等の日本ツアーに参加、またNHK交響楽団(ノリントン指揮)やアンサンブル金沢などの定期演奏会へ初登場などが絶賛を博す。最近ではテミルカーノフ指揮/読売日本交響楽団、ラザレフ指揮/日本フィルハーモニー交響楽団、ビエロフラーヴェク指揮/チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ハーゲン・カルテットの名チェリスト、クレメンス・ハーゲン等と共演し、高評を得る。2015年～16年シーズンには、M.ホルヌング(チェロ)とロンドン・ウィグモアホール、R.オルテガ・ケロ(オーボエ)とニューヨーク・カーネギーホールでのデビューを含め、同世代の実力派アーティストたちとも多角的

な活動が展開される。新日鉄音楽賞、出光音楽賞、日本ショパン協会賞、井植文化賞受賞、文化庁芸術選奨文部科学大臣新人賞、ホテル・オークラ音楽賞を受賞。主なCDに「夜想(ノットウルノ)～ショパンの世界」「ショパン:ピアノ・ソナタ第3番、シューマン:フモレスケ」「ショパン:バラード」「ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番、チェロ・ソナタ」(RCA Red Seal)。 **オフィシャル・ウェブサイト** <http://www.hisakokawamura.com>